

あきらめない、逃げださない

長谷伸二(26歳)

マツダE&T
PT(パワートレイン)設計部

二酸化炭素の排出量や安全性など法規制が厳しくなるなか、今年の一月に、エンジン制御の品質向上を図る「制御チーム」が発足しました。これは親会社(マツダ)では既存部門ですが、我が社では初の取り組みでした。「ぜひ、やらせてください！」と挙手して、私は七人のメンバーの一人になれたのです。

しかし業務内容が一変すると、「仕事にはしんどさはない」という私の認識は吹き飛びました。事例もマニュアルもなく、わからないことばかり。部品の知識も不足しており、打ち合わせについていけません。業務のすずめかたも手探りで、効率が一気に悪くなりました。納期に迫られると「とりあえず」ですすめ

てしまい、結局手直しせざるをえなくなり、しんどくてたまらない日々へと豹変したのです。そんなときの組研でした。今思えば私にとって、参加は最高のタイミングだったのです。

“気抜け”になっていた

キャンパスリーダーの『気抜け』という言葉が、いきなり胸

に突き刺さってきました。今の私は“気が抜けている”のではなく、まさに“気が抜けていた”のです。仕事は“自分”をだすことなく、言われたことをやるのみ、対応できないことを強いられると、すぐに逃げだしたくなりました。恥ずかしい話ですが、実際に「もういいや」と仕事を放り出して帰宅したこともあったのです。「明日やったほうが効率がいいだろう」と、勝手な理由をつけて。

『気抜け』と厳しく指摘されて、必死になっていきました。チームリーダーの姿を見て「この人の思いに応えたい」と思いました。さらに、金券を獲得しないと文具も買えない、酒も飲めないと知ると、「メンバーのために業績をあげなければ」と、熱くなっていたのです。業績とメンバーがすぐく近い関係にあるのを感じました。こんな気持ち、職場で感じたことなどなかったのに…。

S-20の仕組みの調査では、Mタイプを担当しました。日頃、複雑なエンジン制御に取り組んでいるのです。「絶対に解明でき

る」と、入念に調査しました。「ちょっと待って、AやBタイプとは全く反対の視点が必要なんじゃないか?」。ガツンとひらめいたときは、すでに明け方になっていました。無意識のうちにA・Bの仕組みに固執してしまっていたのです。翌朝からは頭を空にして、まったく別の仮説でMの調査を始めました。するとほぼ解明することができました。下期のスタート直前にボードに貼り出すと、「なるほど、やったねえ!」という声が飛び交いました。

対象を見ていると言いながら、自分にとって都合のいいように見ていただけでした。この体験が『自分ばなれ』ができていない!とまっすぐに突き付けてきました。そもそも私には『対象』という意識さえなかったのかもしれない。

組研から一か月が経ちました。職場は相変わらずわからないことばかりです。しかし、逃げたくなっても、「あきらめない、逃げださない」と自分に言い聞かせています。「絶対に自分でやりとげるぞ」と。

新入社員の体験記より

組研五月会期に、新入社員四十八人(さいたまコープ三十六人、JR東日本リテールネット十二人)がチーム参加をしました。彼、彼女らの気づきを、参加後の感想文や直接お聞きしたお話から抜粋して紹介します。

■何か一つの作業を始め、終了するまでの時間を自分たちで設定する中で、時間を有効に活用する事を学べたように思います。

また、コストに対する意識も高まりました。普段なげなく使っているペンや紙に対してもコストがかかっているということとを改めて考えることができたと思います。(浅野聡)

■今までのいかに、自分の思ったこと(≡先入観を事実と思いついていたのか)思い知らされた。仕事をしていくうえで自分本位の先入観とは非常に恐ろしいものだ。

自分の行動・言動・考えに疑問を持つということを教えていただいた。そうすることで、私たちはお客様第一に近づけるのだと知った。(御囲真幸)